

幼稚園・保育所における表現領域の活動に対応した 保育者養成教育のあり方

—京都府南部の幼稚園・保育所へのアンケート調査からの検討—

智 原 江 美
鍋 島 惠 美
和 田 幸 子
下 口 美 帆
田 中 慈 子

I 本研究の目的・意義

認定こども園の制度の導入により保育の制度が多様な保育ニーズに対応すべく大きく変革しつつある今日、保育内容、保育者の質の充実が重要になってきている。幼稚園教諭・保育士には各種の領域の専門的な知識・技能は言うまでもなく、多領域にわたる総合的な実践力が求められている。しかし、従来の保育者養成校のカリキュラムはそのような総合力を養成するには十分とは言えない。子どもの思いを的確に受け止め、保育を様々に展開できる実践力を備えた保育者を養成するために各科目の専門性に重点を置きつつ、科目を横断的に連携させたクロスカリキュラムでの活動を実践することは、保育における総合的な実践力養成の観点から重要であると考えられる。

そこで、保育者養成校でのクロスカリキュラムの指導に反映させるために、表現領域の活動について保育現場の実態や保育者養成に対する要請を知ることを目的とし、現場での表現活動の実態および保育者として求められる表現領域に関しての知識・技能・総合的な実践力について調査を実施したので、調査結果の検討から明らかになったことを報告する。なお、本調査は、調査概要において、調査の目的と方法、データの処理方法、結果の扱いについて明記し、同意を得た上で実施した。

II 研究方法

平成 26 年 10 月に、京都市内及び京都府下南部の幼稚園（国公立 50 園・私立 50 園）・保育所（公立 50 園・

私立 50 園）計 200 園を対象とし、アンケート調査を郵送方式で実施し、5 歳児クラスの担任教諭または保育士に回答を依頼した。

アンケート調査は「幼稚園・保育所における『表現』領域の活動に関する調査」と題し、幼稚園・保育所で実施している表現領域にかかわる活動と、保育において表現活動を実施する際に必要となる保育者の資質や知識・技能の 2 つの観点から調査用紙を作成した。主として次の 3 つの内容について尋ねた（アンケート調査用紙は資料参照）。

- ① 幼稚園・保育所での保育において、表現活動としてとらえて実施している活動は何か。
- ② 保育者として求められる表現領域に関する知識・技能・総合的な実践力とは何か。
- ③ 保育者養成校学生に期待することは何か。

III アンケート調査結果および考察

1. 回答を得た園・保育者について

平成 26 年 10 月末までに 69 園より回答を得た（回収率 34.5%）。内訳は幼稚園 33 園（公立 10 園・私立 23 園）、保育所 35 園（公立 14 園・私立 21 園）、認定こども園 1 園（公立）であった（質問 1. および質問 2.）。また、5 歳児クラス担任として回答した保育者の年齢（質問 8.）は、20 代 17 名、30 代 30 名、40 代 7 名、50 代 11 名、60 代 4 名であった。

質問 3. ～ 7. および質問 9. ～ 11. については、表現領域の活動に関する検討内容には直接関係する内容ではないので、今回の報告からは割愛する。

表 1. 回答のあった園の内訳 (質問 1、質問 2)

n = 69

種別	園数	運営主体	園数
幼稚園	33	公立	10
		私立	23
保育所	35	公立	14
		私立	21
認定こども園	1	公立	1
		私立	0
その他	0		0

表 2. 回答者の年代別内訳 (質問 8)

n = 69

年齢	人数
20 歳代	17
30 歳代	30
40 歳代	7
50 歳代	11
60 歳以上	4

2. 園での表現活動について

まず、質問 12. から質問 15. において、各園で実施されている音楽、造形、身体、言語の表現活動について尋ねた。

園で実施されている表現領域にかかわる行事としては、運動会 69 園、生活発表会 63 園、音楽会 30 園、絵画展 53 園で実施されていた (表 3、図 1)。これら以外にはクリスマス会、お店やさんごっこ、七夕・夏

表 3. 日常の保育の中での表現活動について (複数回答可) (質問 13)

n = 69

表現活動の種類	件数
絵画制作	67
歌唱	65
手遊び	62
運動遊び	62
劇遊び	60
工作	58
リズム遊び	58
粘土	53
合奏	52
ダンス	48
模倣遊び	40

祭り、園外保育、こどもフェスティバルなどが表現領域に関する行事として捉えて実施されていた。また、日常の保育で実施している表現活動としては、絵画制作 (67 園)、歌唱 (65 園)、手遊び (62 園)、運動遊び (62 園)、劇遊び (60 園)、工作 (58 園)、リズム遊び (58 園)、粘土 (53 園)、合奏 (52 園)、ダンス (48 園)、模倣遊び (40 園) があがった。質問 13. で尋ねた表現領域にかかわる各行事の実施の頻度は、毎日行っている歌唱・手遊び・運動遊びなどから学期に 1 回程度の実施となる合奏・劇遊びまで、実施頻度には大きな差がみられた。また、上記以外の活動として、

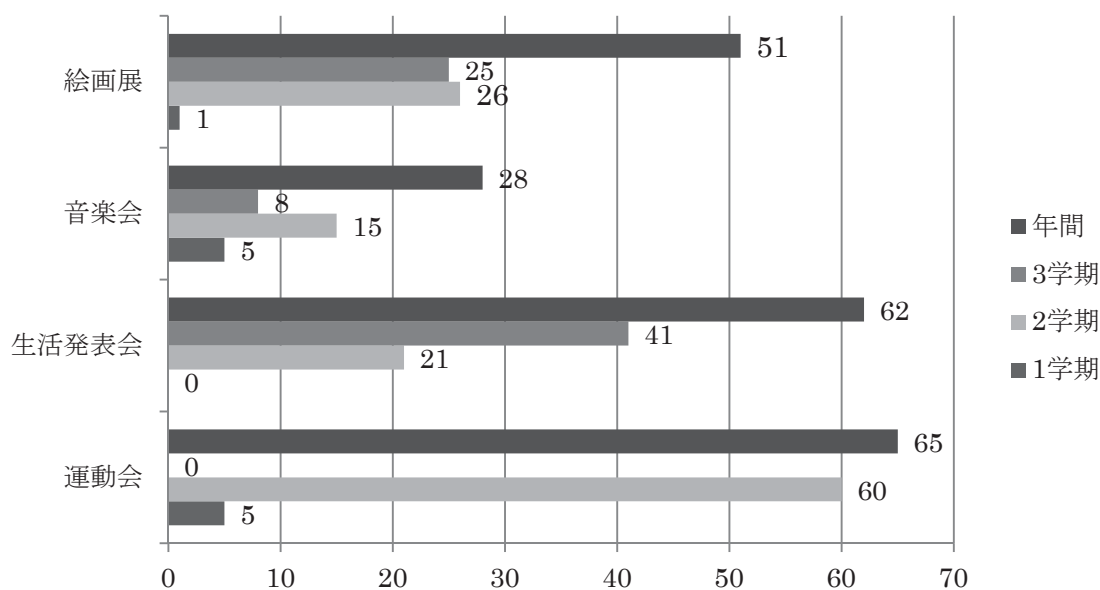


図 1. 5 歳児クラスにおける表現領域の行事 (質問 12)

リトミック、体育指導、折り紙製作、園外活動などがあがった。回答を得た園では、年間の行事として、また日常の保育においても表現領域にかかわる活動を重要な保育活動と位置付けて積極的に実施していることがわかった。

3. 多領域を関連させた活動のとらえ方

質問 14. では、各園の表現活動について、単独領域の活動（音楽表現、造形表現、身体表現、言語表現）、2 領域の重複と考えられる活動、3 領域の重複と考え

られる活動、4 領域の重複と考えられる活動、それぞれの実施を尋ね、活動例を挙げてもらった。

単独領域の活動として音楽表現、造形表現にかかわる活動が多く見られるものの、4 領域の活動内で偏重なく行われていると考えられる（図 2、複数回答可）。ここでは具体的な活動内容の記入欄を設けなかったため、内容は確認できていない。

まず、2 領域の重複について回答の多かったものは、音楽表現と身体表現を重複した活動（41 園）であり、その内容は、リトミック、リズム表現、劇遊びが挙げ

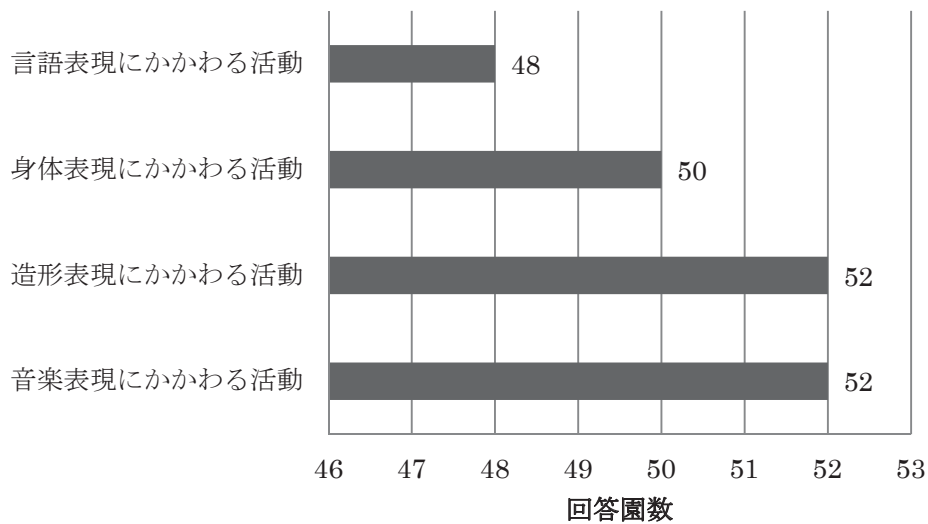


図 2. 単独領域の活動（質問 14-a）

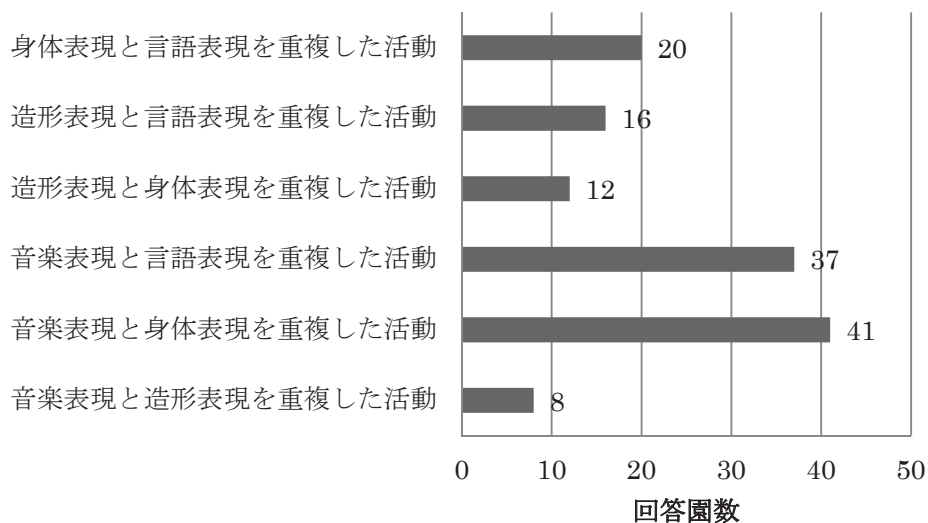


図 3. 2 領域が重複したと考えられる活動（質問 14-b）

られた。リズムは身体の動きにより生み出されるものであり、またリズムにより身体表現に秩序が生まれ伸びやかさが増すなど、音楽表現と身体表現は密接な関係がある。このような内容が音楽と身体表現の重複した活動であると意識されていることがわかった。

音楽表現と言語表現を重複した活動（37園）では、劇遊び、発表会、という回答にみられるような演じる活動と、言葉遊び、わらべうたのように日常生活の中で行われる活動が挙げられた。身体表現と言語表現を重複した活動（20園）でも、同じく劇遊び、発表会という演じる状況での活動内容が挙げられている。

造形表現との重複についての回答をみると、言語表現との重複（16園）、身体表現との重複（12園）、音楽表現との重複（8園）と、意識される活動が少なくなっていることに気づく。その活動内容はそれぞれ、

ごっこ遊び、運動会、劇遊びや発表会とあり、演じるために見立てたり、役になりきるための道具作りを指していると考えられる。一方、造形表現と身体表現の重複した活動として、ボディペインティングも挙げられている。造形活動そのものが素材に手で触れ形を変えていくという身体感覚で行う行為であることを意識していく必要はあるであろう（図3）。

3領域の重複した活動についての回答では、音楽、身体、言語表現の重複を挙げた回答（13園）があった。その内容はオペレッタ（5園）、発表会、劇であり、その他、手遊び、わらべうた遊びもあった。造形表現を含む3領域の活動と意識されている回答は少なく、その内容は、運動会、劇、ままごとであった（図4）。

4領域の重複した活動についての回答は11園あった（図5）。その内容は発表会、劇、オペレッタ、の

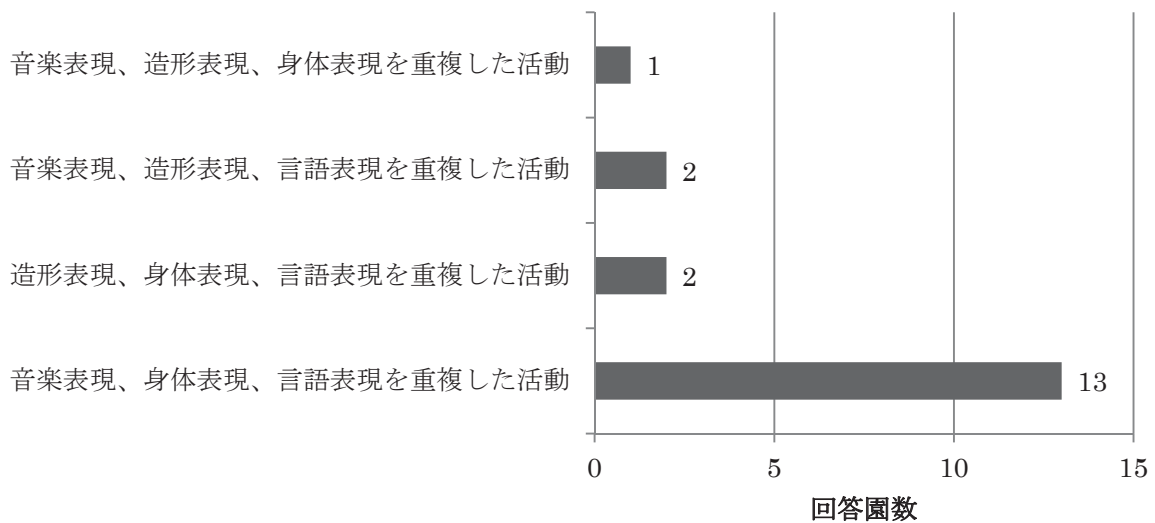


図4. 3領域が重複したと考えられる活動（質問14-c）

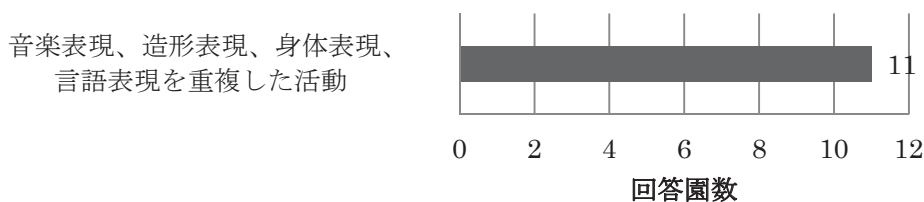


図5. 4領域が重複したと考えられる活動（質問14-d）

ように演じて発表するというものであった。

次に、質問 15. において、「表現活動を実施する際に重点をおいていること」について、記述式の回答を得る形で尋ねた。多くの回答に共通していたことは、「子どもが『楽しむ』ことに重点をおいている」ことがわかった。

子どもの姿として、子どもの素直な表現や子ども自身が思いを自由に、自分なりに表現できることを基本とし、子どもが自ら主体的に意欲を持って取り組むこと大切にしている。また、保育者の援助としての観点からは、環境構成・導入の仕方・教材の選択・発達段階に適合しているかどうかの重要性、子どもに自信を持たせたりイメージしやすくするための援助の工夫、子どもの発見や気づきを認めることの大切さなどが、子どもが楽しめる活動を行うための保育者の援助としてあげている。

4. 保育者として求められる表現領域に関する能力について

質問 16. では表現活動を指導する際に保育者の資質として重要だと思われる 6 項目をあげ、その重要度を尋ねた。非常に重要と考える回答が一番多かった項目は「身体・音楽・造形・言語等の表現活動に関する豊かな『感性』」(40 名)であった。以下、「表現活動の観点から『子どもの発達をとらえ、具体的な表現活動に結びつけることのできる能力』」(38 名)、「保育のねらいに則し、子どもの遊びを豊かに『展開するための技術』の習得」(34 名)と続く(表 4)。ただし、選択肢として挙げた 6 項目ほぼすべてにおいて、60 名

以上が「重要である」または、「非常に重要である」と回答した。

質問 18. は、表現活動を実施する際、各領域の活動で重要と考えられる保育者の知識・技能について領域ごとに選択肢をあげ、もっとも重要だと思うもの 3 つを選んで回答をしてもらう形式をとった。

①音楽表現領域

質問 18-A. においては、表現活動を実施する際に重要であると考えられる保育者の知識・技能のなかで、特に音楽表現分野について尋ねた。

まず、音楽表現活動にかかわる、もっとも重要であると思われる保育者の知識・技能として、10 項目について、重要と思われるもの 3 つを選んで回答してもらった。

結果は、「弾き歌いをする」が 36 名で最も多く、次いで「身体表現を引き出すピアノ演奏をする」と「音程、発声よく歌う」が同数の 34 名、以下「音楽表現活動の指導法」が 30 名、「幼児歌曲を知っている」が 25 名、「楽譜を読む」が 20 名と続いた。(図 6)

次に、幼児歌曲の選曲の際にレパートリーとして重要と思われる曲目を尋ねたところ、複数挙げられた「チューリップ」、「さんぽ」、「きらきらぼし」を始めとして、「こいのぼり」、「たなばたさま」、「ジングルベル」、「うれしいひなまつり」、「どんぐりころころ」、「ゆき」、「いぬのおまわりさん」、「アンパンマンのうた」、「おひさまになりたい」、「しょうじょうじのためきばやし」等、季節や行事の曲、昔ながらの歌、子どもが好きな歌、わらべうたなどがあげられた。

表 4. 表現活動を指導する保育者の資質として重要な事柄 (質問 16.)

n = 69

	重要でない	あまり重要でない	どちらでもない	重要	非常に重要
身体・音楽・造形・言語等の表現活動に関する豊かな感性	1	0	3	24	40
身体・音楽・造形・言語等の表現活動に関する技能	1	1	7	44	16
身体・音楽・造形・言語等の表現活動にかかわる教材などを子どもの発達に合わせて作成・活用する能力	1	1	4	30	32
身体・音楽・造形・言語等の表現活動の指導法の習得	1	1	8	35	24
保育のねらいに則し、子どもの遊びを豊かに展開するための技術の習得	1	1	2	31	34
表現活動の観点から子どもの発達をとらえ、具体的な表現活動に結びつけることのできる能力	1	1	2	27	38

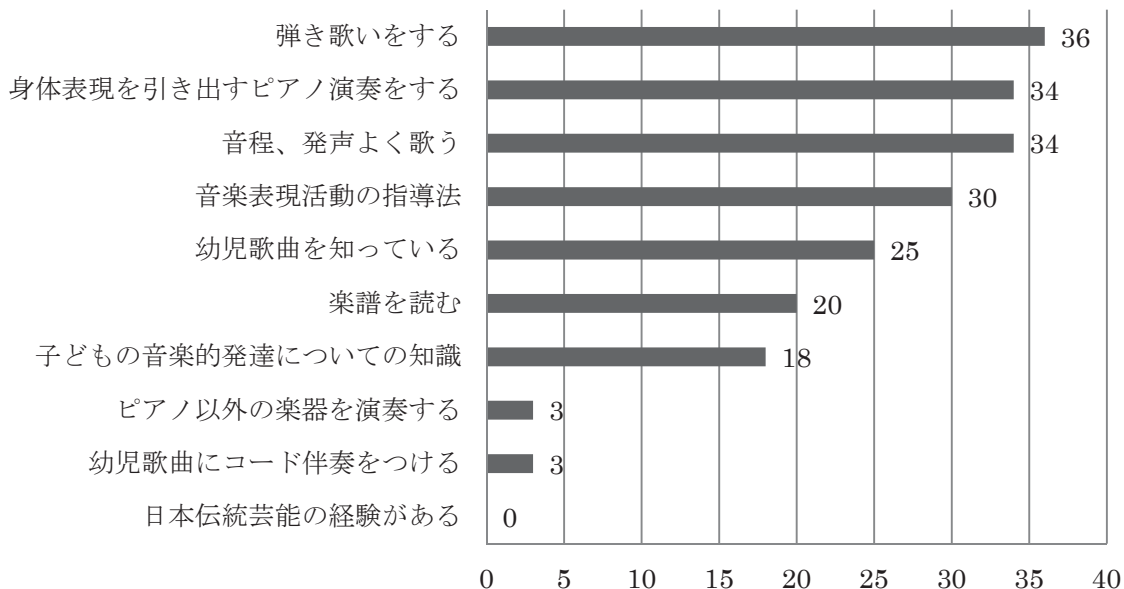


図6. もっとも重要であると思われる保育者の知識・技能（音楽領域）（質問 18-A）

最後に、もっとも重要であると思われる保育者の知識・技能として、弾き歌いをする、幼児歌曲にコード伴奏をつける、身体表現を引き出すピアノ演奏をする、を重要と挙げた人を対象に、どれくらいのレベルのピアノ技術が必要であるか、3項目の中から1つ選択して貰った。結果は、上位から「ブルグミュラー終了程度」が23名、「ソナチネ程度」が19名、「バイエル終了程度」が16名となった。

②造形表現領域

質問 18-B. では造形表現分野について尋ねた。

まず、造形表現活動にかかわる、もっとも重要であると思われる保育者の知識・技能として、9項目につ

いて、重要と思われるもの3つを選んで回答してもらった。結果（図7）は、「自然やものの色や形、感触、イメージ等に親しむ経験」が43名で最も多く、次いで「子どもの経験や表現と造形表現を結びつける遊びの展開」が36名であり、この2項目が特に多かった。

この結果を「質問 16. 保育の専門性として重要と考えられる項目」、「質問 17. 大学で学んでほしいと思われるもの」の回答結果において、「感性」が最も多く、次いで2番目「活用能力」が挙げられている事と照らし合わせると、造形表現分野においても、「自然やものの色や形、感触、イメージ等に親しむ体験」を通して保育者自身の「感性を豊かに持つ」こと、「子

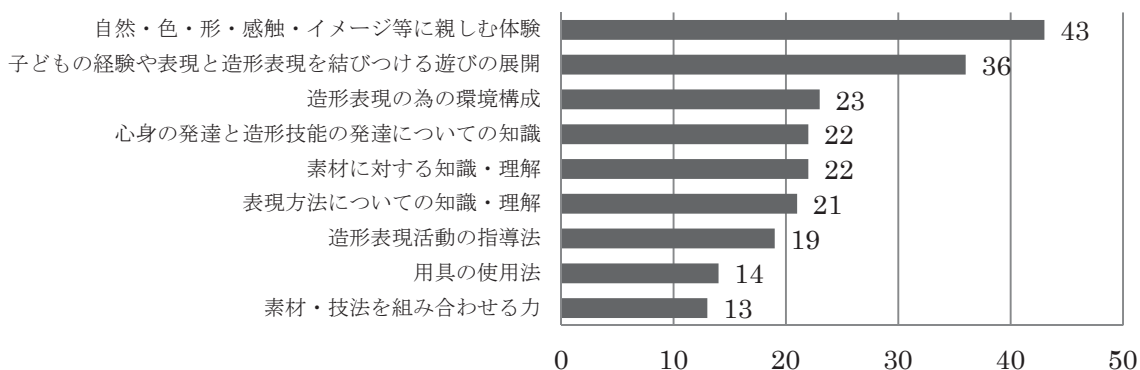


図7. もっとも重要であると思われる保育者の知識・技能（造形領域）（質問 18-B）

どもの経験や表現活動と造形表現を結びつけ」て、「遊び」へと「展開」する、いわば「活用能力」の重要性が示されており、「保育者の専門性ならびに大学で必要とされる学び」と「造形分野で重視される知識・技能」が合致する結果となった。3～7番目に重要と回答された要素については、環境構成 23 名、発達の知識 22 名、素材の知識理解 22 名、表現方法の知識理解 21 名、指導法 19 名と重要度に大きな差はみられなかった。

次に、造形表現分野では、素材と技法、用具が活動と密接に関わっていることから、小項目として設問 b-1 素材、b-2 表現技法、b-3 用具についてそれぞれの重要性について尋ねた。

設問 b-1 では、素材特性に関する知識・理解を重要と挙げた人を対象に、特に重要な素材について、6 項目の選択肢から 1 つ選択して貰った。結果(図 8)は、

身の回りのもの（※牛乳パックや空き箱、ペットボトルなどの生活上子ども達の身の回りにあり、保育の場で造形素材として使用されるもの）が 12 名、絵の具が 10 名で多く、次いで紙が 5 名、粘土、その他（自然物 1 名、未記入 1 名）であった。

設問 b-2 では、表現技法についての知識・理解で特に重要なものについて、8 項目の中から 1 つ選択して貰った。結果(図 9)は描画 17 名、身の回りの物、自然物が 2 名、紙工作、3. 版画、粘土が 1 名、と描画についてが圧倒的に多かった。

設問 b-3 では、用具の使用法についての知識・理解で特に重要なものについて、11 項目の中から一つを選んで貰った。結果(図 10)はパス・クレヨンとハサミが 5 名、筆が 4 名、のりが 2 名、粘土べらが 1 名、その他として用具を使いこなすための手先の器用さ、身体の手台作りが重要との意見があった。

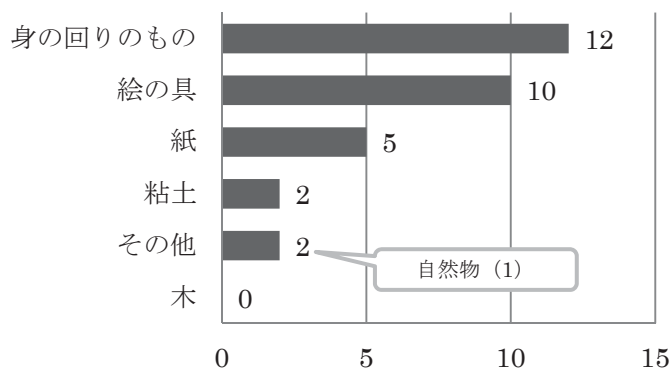


図 8. 素材特性に関する知識・理解で特に重要なもの（質問 18-b-1）

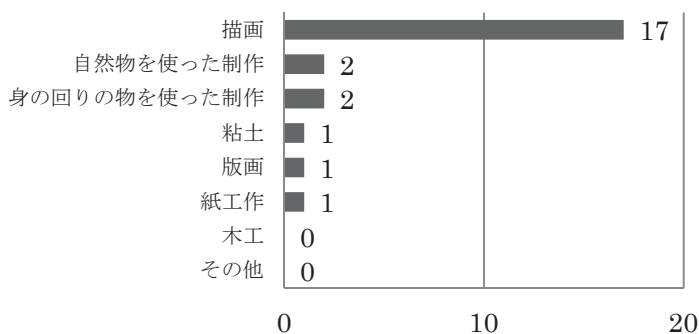


図 9. 表現技法についての知識・理解で特に重要なもの（質問 18-b-2）

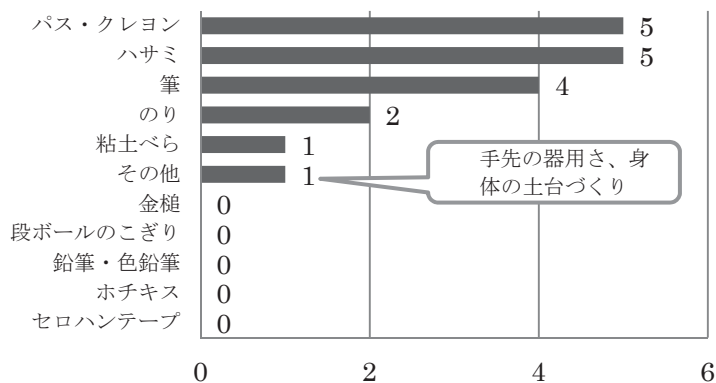


図 10. 用具の使用法についての知識・理解で特に重要なもの（質問 18-b-3）

③身体表現領域

質問 18-C においては身体表現活動を行う際に重要と思われる保育者の知識・技能について尋ねた。10 項目の選択肢をあげ、重要と思われるもの 3 つを選んで回答する形をとった。その結果、もっとも重要とされたのは、鬼ごっこ、わらべうた遊びなどの「身体活動を伴った遊びの経験」（52 名）であり、以下、スキップやギャロップ、バランス感覚などの「子どもの身体表現にかかわる身体能力の発達についての知識」（43 名）、「体力」（36 名）、「リズム感」（35 名）と続く（図

11）。「身体表現の指導法」も 20 名が重要とあげており、次に球技、陸上競技、水泳などの「スポーツなどの運動経験」4 名、走能力、跳躍力、投球能力などの「運動を行う身体能力」が 3 名、フォークダンス、ジャズダンス、バレエなどの「ダンスの経験」、「創作ダンスの経験」、盆踊りなどの「日本伝統芸能の経験」はそれぞれ 2 名が重要とあげていた。

④言語表現領域

質問 18-D. においては、表現活動を実施する際に重

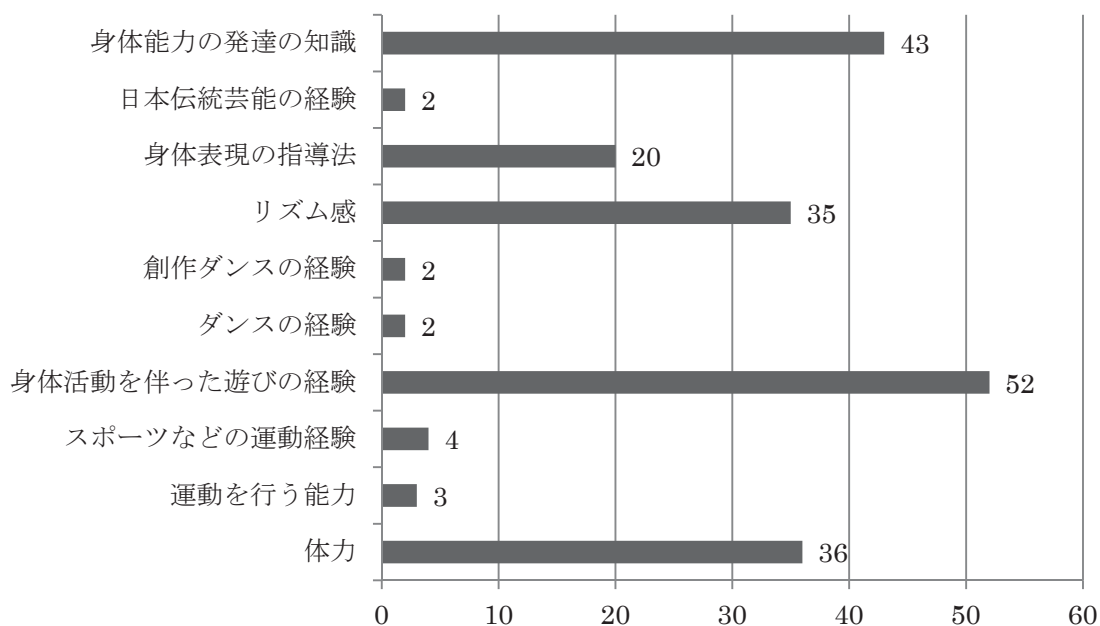


図 11. 身体表現にかかわる知識・技能で重要なこと（質問 18-C）

要であると考えられる保育者の知識・技能のなかで、言語表現分野について尋ねた。この調査項目の選定に関しては、保育所保育指針・幼稚園教育要領に明記されている、言葉の獲得に関する領域「言葉」を鑑みて、保育現場で子どもの活動（遊び）として取り上げられている保育内容や教材・子どもにとってふさわしい保育者の語り・伝え合いの言葉に関するものを取り上げた。以下、言語表現活動にかかわる、もっとも重要であると思われる保育者の知識・技能として、9項目について、5歳児担任の保育者に重要と思われるもの3つを選んで回答してもらった。

その結果（図12）は、「子どもや保護者や教職員とコミュニケーションをとる知識・技能」が50名で最も多く、次いで「絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサートなどの文化財の知識・技能」が38名であり、「ことばのリズム、ことば遊び、わらべうた遊びの知識・技能」が30名、「ことばに関する感性を磨く知識・技能」が29名、「非言語的コミュニケーション（表情、しぐさなど）の知識・技能」が20名、「声色や声量を調整する知識・技能」が18名、「素話の知識・技能」が12名、「日本伝統芸能の知識・技能」が0名、その他「言葉にならない子どもの思いを言葉で返す」との回答が1名であった。

質問19. では、「保育者が実習生に伝えたい表現活

動の面白さ」を、質問20. では「保育者が実習生に伝えたい表現活動の困難さ」について記述形式で尋ねた。回答はおおよそ「子ども自身に関すること」、「保育者の援助に関すること」、「保育者自身に関すること」の3つの内容に分類できた。

5. 表現活動を実施する際に重点をおいていること

表現活動で子どもと関わる中で保育者が感じている面白さは、「表現の意外性（発想の豊かさ、個性、自由、無限）や予想外の活動」がみられること、「子ども同士の関わりの深まりや協力」がみられること、「なりきる、感動する」姿、「個々の感性の違い」や「イメージの膨らみ」が感じられること、「子どもの生き生きした表情、思い、満足げな表情」を見せ、子ども自らが作り出すエネルギーに満ち溢れていることが上がった。一方、困難さとしては、「個人差があること」、「表現することに苦手意識を持っている」こと、「イメージが湧きにくい子どもがいる」ことなどであった。

保育者の援助に関しては、「過程を受容すること」、「自信につながる言葉がけ」、「子どもとともに創る（保育者自身になりきる、共感、達成感、わくわく感）こと」、「視線を低くして、表情や言葉の響きを意識すること」、「子どもの表現を引き出す、表現を形にしてい、意図した環境などに工夫をすること」などを自ら

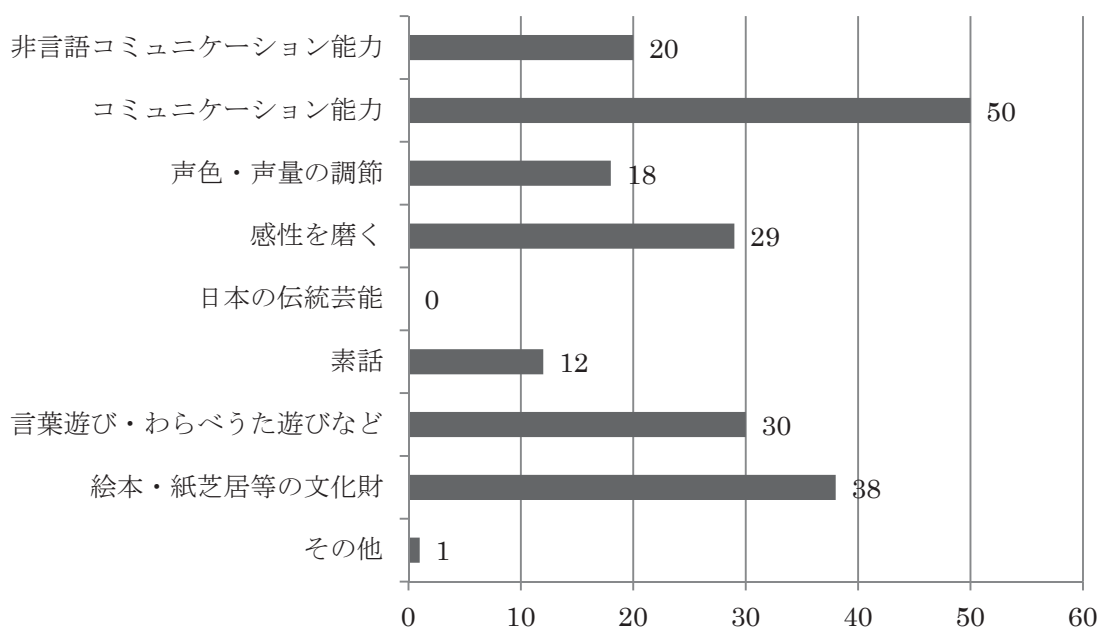


図12. 身体表現にかかわる知識・技能で重要なこと（質問18-D）

が楽しんで活動していることが分かった。一方、保育者の援助で困難に感じていることとしては、「環境構成、言葉かけ、導入」に難しさを感じ、「子どものイメージを引き出すこと」、「保育者の知識、技能、感性を押し付けてはいないか」について不安を感じたり、「子どもとともに創ったり、楽しむこと」ができていないのではないかという反省が見られた。

さらに保育者自身に関することでは、面白さとして、「教材研究をする中で新たな発見があったり、発達にふさわしい表現」に気づくこと、「普段とは異なる子どもの一面」や「集中力の高まり（特に音楽活動）」が感じられ、「保育者自身が豊かである」ことを意識したり、「子どもの内面が見えてくる」ことにやりがいを感じたりしている。一方、保育者自身の問題点として、「保育者が表現活動に苦手意識」を感じていたり、「保育者自身の知識・技能が乏しく、子どもの表現を引き出せないこと」に苦痛に思っているようである。また、「マニュアル通りにはいかない」ことで自身の保育の実践力を見直す必要があることもあるようである。

5. 養成校学生に関して求めること

アンケート調査の最終部分では、保育者が養成校学生に対して求めることについて尋ねた。

質問 17. では、表現活動に必要な専門性として保育者養成校学生に学んで欲しい知識・技能について尋ねたところ、表 5 のような結果となり、保育者自身の資質として重要と感じている「感性」の習得を重要と考える回答が非常に多かった。次いで「身体・音楽・造形・言葉表現にかかわる教材などを子どもの発達に

合わせて作成・活用する能力」が上がった。

質問 21. では表現活動を実践するために養成校在学中に経験しておくことが望ましい事柄として以下のようなことが上がった。

指導内容にかかわることとして、

- ・子ども役、保育者役になりきる
- ・いろいろなものを見て感じる（本物の観劇や鑑賞）
- ・描画の技法、画材の使用法、ピアノの初見演奏技術、編曲・転調・コード、絵本、手遊びの習得
- ・絵本や紙芝居の作成、創作ダンス（グループ製作、ミュージカル）、リトミック、パネルシアターの経験
- ・自然と出会う
- ・創作（シナリオ製作から演じるまで）、共同制作、劇遊びや歌唱の指導法

などの、感性を磨いて個々の教材につながるような活動の経験と、

- ・子どもと活動する（できれば週 1 回程度の頻度で授業として）、子どもありきの表現
- ・さまざまな園行事（発表会など）に参加
- ・実習での設定保育

等の現場経験の重要性の指摘も見られた。

さらに指導方法にかかわる項目として、

- ・観劇、鑑賞、自然とのふれあいを通して感性を磨く
- ・物事を受けとめる感性や感受性、心を動かす経験や感情の豊かさを身に付ける
- ・相手の表現に興味を持ち、受け入れる
- ・自分自身を表現する能力
- ・社会人としての社会性、コミュニケーション能力
- ・子どもの目線で遊ぶ

等が挙げられた。

表 5. 表現活動を指導するうえで保育者養成校学生が習得しておくことが望ましい知識・技能（質問 17）

n = 69

項目	件数
身体・音楽・造形・言語等の表現活動に関する豊かな感性	41
身体・音楽・造形・言語等の表現活動に関する技能	28
身体・音楽・造形・言語等の表現活動にかかわる教材などを子どもの発達に合わせて作成・活用する能力	35
身体・音楽・造形・言語等の表現活動の指導法の習得	29
保育のねらいに則し、子どもの遊びを豊かに展開するための技術の習得	25
表現活動の観点から子どもの発達をとらえ、具体的は表現活動に結び付けることのできる能力	23
その他	10

IV まとめ

今回の調査により現場での表現領域の実態や多様性および保育者にどのような具体的なスキルを求めているのかが明らかになり、保育者養成におけるクロスカリキュラム策定の大きな参考になると考えられる。

園での表現活動の実態についてはおおよそ以下のよう
にまとめられる。

保育現場では多様な表現活動が行われており、音楽・身体・言葉表現の活動は関連させて実施されていることが多いことが分かった。一方、造形表現は単独で実施されていることが多く、他の表現活動との関連が弱いことが明らかとなった。表現活動を実施する際、保育者は幼児自らの主体的な取り組みや自由な発想を受けとめつつ、「楽しむ」ことに重点を置いていることが明らかとなった。

次に、保育者に求められる表現領域に関する知識・技能・総合実践力について、現場の保育者が保育者の資質として必要な事柄として最も多くあげたのは、豊かな感性であった。領域別にみると、音楽表現領域では弾き歌いが、造形表現領域では自然・色・形・感触・イメージ等に親しむ体験が、身体表現領域では身体活動を伴った遊びの体験が、言葉表現領域ではコミュニケーション能力が保育者に求められる知識・技能として挙げられた。そして、保育者は子どもの内面や姿が見えた時に表現活動に面白さを感じており、それゆえに子どもの発達に則した指導力の重要性を指摘している。

さらに、表現活動を実施するにあたり、養成校学生に望むこととしては次のような事柄が上がった。養成校在学中に習得すべき事柄として、保育者の資質として重要であるとあげられた、感性・子ども理解（発達）・領域の総合性理解が求められている。そのためには日ごろから芸術や自然環境に触れる機会を持つことや、実践現場での保育体験（ボランティア）が重要であるという回答が多く見られた。

V 総括と今後の展望

今回の調査では、表現活動の実施においては保育者にとっても、養成校学生にとっても豊かな感性が非常に重要であるとの結果を得た。養成校学生が豊かな感

性を習得できるような授業を実施するためには、養成校教員自らも絶えず自身の感性を磨く努力が重要であるといえる。そのためには、授業の中で自らが使う言葉の感覚を研ぎ澄ませる姿勢が必要であると考えられる。

また、養成校在学生在が総合的な活動に取り組む中で、領域の総合性を実感して指導の知識・技能を理論的に習得するとともに、保育現場での実践の中での学びと往還しつつ、保育者と養成校教員が連携して学生を育てることが自明のことではあるが重要となるであろう。

今回の調査で明らかになった、単独で実施されることの多い造形表現活動と他の領域を関連させた、たとえば感触・形・色のイメージを言葉・動きなどで総合的に表現できるような活動など、養成校学生が豊かな感性を習得できるような授業の開発を試み、現場の求める表現活動に生かせるクロスカリキュラムの試案を作成して授業展開しつつ検討していきたいと考える。

本稿は第68回日本保育学会大会において行ったポスター発表「幼稚園・保育所における表現領域の活動と保育者の専門性」（智原・鍋島・和田・下口・田中）に加筆したものである。

また、本研究は文部科学省科学研究費補助金〈基盤研究（C）26381297（平成26年度～平成28年度）〉の助成を得て実施した。

参考・引用文献

- 岩田純一、「子どもの友だちづくりの世界」2014, 金子書房
- 松岡享子, 「お話を語る」1994, 日本エディタースクール出版部
- 文部科学省, 「幼稚園教育要領解説」2008, フレーベル館
厚生労働省編, 「保育所保育指針解説書」2008, フレーベル館
- 全国保育士養成協議会, 「保育者の専門性についての調査—養成課程から現場へとつながる保育者の専門性の育ちのプロセスと専門性向上のための取り組み—」2012, 全国保育士養成協議会平成24年度専門委員会課題研究報告書
- 全国保育士養成協議会, 「保育者の専門性についての

調査—養成課程から現場へとつながる保育者の専門性の育ちのプロセスと専門性向上のための取り組み（第2報）—」2013, 全国保育士養成協議会平成25年度専門委員会課題研究報告書

資料

幼稚園・保育所における「表現」領域の活動に関する調査

この度、実践力を備えた保育者を養成するため、「保育者養成における領域「表現」へのクロスカリキュラム導入に関する検討」のテーマのもと、保育者養成校での科目を連携させた活動の有効性について検討することを目的として、貴園で実施されている「表現」領域の活動に関する調査を実施することとなり、5歳児クラスご担当の先生に回答をお願いしております。貴園で5歳児クラスで実施されている表現活動に関してお答えいただけますようお願い申し上げます。

回答は選択肢の中からあてはまるものに○をつける回答方法が中心ですが、回答欄に自由に内容を書き込む質問もあります。個人情報取り扱いには十分配慮し、調査票は無記名式で、調査結果は統計的に処理いたします。回答者やその勤務先に迷惑をかけることのないよう、万全の配慮をいたしますので、率直で忌憚のないお考えやご意見をお書きください。

大変ご多忙の時期に誠に恐縮と存じますが、調査のご協力を願いますようお願い申し上げます。なお、ご記入いただきました調査票は、10月31日(金)までに返信用封筒に入れてご返送いただきますようお願いいたします。

平成26年10月吉日

京都光華女子大学短期大学部子ども保育学科

智原 江美(研究代表者)

鍋島 恵美・和田 幸子

下口 美帆・田中 慈子

問い合わせ先: TEL: 075-925-5498

FAX: 075-925-5302

E-mail: gmi-chr@mail.koka.ac.jp

はじめにあなたがお勤めされている園についてお伺いします。

1. 園の運営主体について、あてはまるもの1つに○をつけてください。
1. 国(独立行政法人) 2. 地方公共団体 3. 法人 4. その他()

2. 園の種類についてお伺いします。あてはまるもの1つに○をつけてください。
1. 幼稚園 2. 保育所(園) 3. 認定こども園 4. その他()

3. 園の所在地をお書きください。
京都府 _____ 市・区・町・村 _____

4. 園が創立されたのはいつですか。
_____年 _____月 _____日

西暦 _____年 _____月 _____日

5. 園の規模(定員)をお伺いします。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 50人未満 2. 50人以上100人未満 3. 100人以上150人未満
4. 150人以上200人未満 5. 200人以上250人未満 6. 250人以上

6. 職員構成についてお伺いします。在職者であてはまる方がいらっしゃる場合、該当する番号すべてに○をつけて()内に人数をお書きください。

1. 園長・所長 2. 理事長 3. 副園長・教頭・副所長 4. 主任()人
5. 正規雇用の保育者()人 ※上記1~4を除いた人数をご記入ください。
6. 非正規雇用の保育者()人 7. 養護教諭・看護師・保健師()人
8. 栄養教諭・調理員・栄養士()人 9. 事務職員()人
10. その他()

7. 貴園の教育(保育)目標(望ましい子ども像)をお書きください。

[_____]

次に、回答者ご自身についてお伺いします。

8. 年齢をお書きください

1. 20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代 4. 50歳代 5. 60歳以上

9. 性別をお書きください。

1. 女性 2. 男性

10. 勤務年数・経験年数をお書きください。

1. 幼稚園・保育所での全勤務年数 _____年 _____月 _____日
2. 現在の園での勤務年数 _____年 _____月 _____日

3. 年長クラス(5歳児)の担当回数・年数 回 年 月 日
 11. 以下の中であなたが取得されている免許・資格はなんですか。あてはまるものはまるものすべての番号に○をつけ
 てください。

- 1. 幼稚園教諭二種
- 2. 幼稚園教諭一種
- 3. 幼稚園教諭専修
- 4. 保育士
- 5. 小学校教諭一種
- 6. 小学校教諭二種
- 7. 小学校教諭専修
- 8. その他(資格名:)

園で実施されている表現活動の内容についてお伺いします。

12. 年長児(5歳児)クラスの保育における表現の領域にかかわる行事として、どのようなものを実施されていま
 ずか。実施されている行事すべての番号に○をつけ、実施の月を記入してください。

- 1. 運動会 (月)
- 2. 生活発表会 (月)
- 3. 音楽会 (月)
- 4. 絵画展 (月)
- 5. その他(行事名: 実施月: 月)
- その他(行事名: 実施月: 月)
- その他(行事名: 実施月: 月)

13. 通常の保育において実施されている表現活動の内容について、それぞれの活動を実施されている頻度を
 ()内に例にならってご記入ください。

例 (毎日・ 1 週・ 1 週・ 1 学期 に 3 回)

- 1. 絵画 (毎日・ 週・月・学期 に 回)
- 2. 工作 (毎日・ 週・月・学期 に 回)
- 3. 粘土遊び (毎日・ 週・月・学期 に 回)
- 4. 歌唱 (毎日・ 週・月・学期 に 回)
- 5. 合奏 (毎日・ 週・月・学期 に 回)
- 6. リズム遊び (毎日・ 週・月・学期 に 回)
- 7. 手遊び (毎日・ 週・月・学期 に 回)
- 8. ダンス (毎日・ 週・月・学期 に 回)
- 9. 運動遊び (毎日・ 週・月・学期 に 回)
- 10. 模倣遊び (毎日・ 週・月・学期 に 回)
- 11. 劇遊び (毎日・ 週・月・学期 に 回)
- 12. その他(活動内容:)(毎日・ 週・月・学期 に 回)
- その他(活動内容:)(毎日・ 週・月・学期 に 回)
- その他(活動内容:)(毎日・ 週・月・学期 に 回)

14. 貴園の表現活動について、下記よりあてはまるものの番号に○をつけて下さい(複数可)。

- 1. 音楽表現にかかわる活動
- 2. 造形表現にかかわる活動
- 3. 身体表現にかかわる活動
- 4. 言語表現にかかわる活動
- 5. 音楽表現と造形表現を重複した活動 (活動例)

- 6. 音楽表現と身体表現を重複した活動 (活動例)

- 7. 音楽表現と言語表現を重複した活動 (活動例)

- 8. 造形表現と身体表現を重複した活動 (活動例)

- 9. 造形活動と言語表現を重複した活動 (活動例)

- 10. 身体表現と言語表現を重複した活動 (活動例)

- 11. 音楽・造形・身体・言語表現の中の3つ以上が重複した活動
 [その活動に○印をつけてください [音楽・造形・身体・言葉] 活動例]

- [その活動に○印をつけてください [音楽・造形・身体・言葉] 活動例]

- [その活動に○印をつけてください [音楽・造形・身体・言葉] 活動例]

17. 16 の質問項目である保育の専門性(1~6)に関して、実習生を受け入れられた経験から、大学で学んでほしいと思われるものすべての番号に○をつけてください。

1. 感性
2. 技能
3. 活用能力
4. 指導法
5. 展開するための技術
6. 統合能力
7. その他 ()

18. 表現活動を実施する際、次のそれぞれの活動で重要であると考えられる保育者の知識・技能について、それぞれ表現領域について、**もっとも重要であると選ばれるもの3つ**を選んで○印をつけてください。

- A. 音楽表現にかかわるもの
1. 幼児歌曲を知っている
 2. 音程、発声よく歌う
 3. 楽譜を読む
 4. 弾き歌いをする
 5. 幼児歌曲にコード伴奏をつける
 6. 身体表現を引き出すピアノ演奏をする
 7. ピアノ以外の楽器を演奏する(日本の楽器を含む)
 8. 日本伝統芸能の経験がある
 9. 子どもの音楽的発達についての知識
 10. 音楽表現活動の指導法

a-1 A. 音楽表現にかかわる上記の質問で1に○をつけられた方にお尋ねします。
幼児歌曲の選曲の際にパートナーとして重要と思われる曲名を3曲挙げて下さい。

- ①
- ②
- ③

a-2 A. 音楽表現にかかわる上記の質問で4, 5, 6に○をつけられた方にお尋ねします。
ピアノ伴奏の技術として、どのくらいのレベルの技術が必要だと考えておられますか。あてはまるもの1つの番号を選んで○をお付け下さい。

1. バックエール終了程度の技術
 2. プルグミュラー終了程度の技術
 3. ソナチネ程度の技術
- B. 造形表現にかかわるもの

15. 通常の保育において表現活動を実施される場合、どのようなことに重点を置いて保育をなさっていますか。

16. 回答者の方が表現活動における保育者の専門性を考える場合、以下のような内容にかかわる知識・技能はどのくらい重要であると考えますか。あてはまるもの1つに○をつけて下さい。

	保育者の専門性として重要でない	保育者の専門性としてあっても重要でない	どちらでもない	保育者の専門性として重要である	保育者の専門性として非常に重要である
1. 身体・音楽・造形・言語等の表現活動に関する豊かな 感性	1	2	3	4	5
2. 身体・音楽・造形・言語等の表現活動に関する 技能	1	2	3	4	5
3. 身体・音楽・造形・言語等の表現活動にかかわる教材などを子どもとの発達に合わせて 作成・活用する能力	1	2	3	4	5
4. 身体・音楽・造形・言語等の表現活動の 指導法の習得	1	2	3	4	5
5. 保育のねらいに則し、子どもの遊びを豊かに 展開するための技術 の習得	1	2	3	4	5
6. 表現活動の観点から 子どもの発達をとらえ、具体的な表現活動に結びつけることができる能力	1	2	3	4	5

1. 自然やものの色や形、感触、イメージ等に親しむ経験

2. 素材特性に関する知識や理解

3. 表現技法についての知識や技術

4. 用具の使用法

5. 素材や技法を組み合わせる力

6. 子どもの心身の発達と造形技能の発達についての知識

7. 造形表現活動のための環境構成

8. 造形表現活動の指導法

9. 子どもの経験や表現活動と造形表現を結びつける遊びの展開

b-1. B. 造形表現にかかわる上記の質問で2に○をつけた方にお尋ねします。素材特性に関する知識・理解で特に重要なものは何ですか。一つを選んで番号に○をつけてください。

1. 絵の具 2. 紙 3. 粘土 4. 木 5. 身の回りのもの 6. その他()

b-2. B. 造形表現にかかわる上記の質問で3に○をつけた方にお尋ねします。表現技法についての知識・理解で特に重要なものは何ですか。一つを選んで番号に○をつけてください。

1. 描画 2. 紙工作 3. 版画 4. 粘土 5. 木工

6. 身の回りの物を使った制作 7. 自然物を使った制作 8. その他()

b-3. B. 造形表現にかかわる上記の質問で4に○をつけた方にお尋ねします。用具の使用法についての知識・理解で特に重要なものは何ですか。一つを選んで番号に○をつけてください。

1. ハサミ 2. のり 3. セロハンテープ 4. ホチキス 5. ハス・クレヨン

6. 鉛筆・色鉛筆 7. 筆 8. 粘土べら 9. 段ボールのござり 10. 金槌

11. その他()

C. 身体表現にかかわるもの

1. 体力

2. 運動を行う身体能力 (走能力、跳躍力、投球能力など)

3. スポーツなどの運動経験 (球技、陸上競技、水泳など)

4. 身体活動を伴った遊びの経験 (鬼ごっこ、わらべ歌遊びなど)

5. ダンス(フォークダンス、ジャズダンス、バレエなど)の経験

6. 創作ダンスの経験

7. リズム感

8. 身体表現の指導法

9. 日本伝統芸能(盆踊りなど)の経験

10. 子どもの身体表現にかかわる身体能力(スキップやキャロップ、バランス感覚など)の発達についての知識

D. 言語表現にかかわるもの

1. 絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサートなどの文化財の知識・技能

2. ことばのリズム、ことば遊び、わらべうた遊びの知識・技能

3. 素話の知識・技能

4. 日本伝統芸能の知識・技能

5. ことばに関する感性を磨く知識・技能

6. 声色や声量を調整する知識・技能

7. 子どもや保護者や教職員とコミュニケーションをとる知識・技能

8. 非言語的コミュニケーション(表情、しぐさなど)の知識・技能

9. その他 (具体的に)

19. 表現活動指導の面白さについて、お考えをお書きください。

[]

20. 表現活動指導の困難さについて、お考えをお書きください。

[]

21. 保育において表現活動を実施するにあたって、保育者養成校で経験・習得しておくよと思われる事柄はどんなことがありますか。ご自由にお書きください。

(例 : 劇やミュージカルなどの大作に取り組む経験)

[]

22. 本調査に関するご意見やご教示などがございましたらお書きください。

[]

ご協力ありがとうございました。回収期日(10月31日)までに同封の封筒にてご返送頂きますようお願い致します。